

令和7年3月吉日

世田谷区立桜木中学校
校長 石井 達也 様

世田谷区立桜木中学校

学校関係者評価委員会

令和6年度 桜木中学校学校関係者評価報告書

本年度の学校関係者評価を、各種アンケート、ヒアリング等をもとに取りまとめました
ので、別紙のとおり報告します。

今回の学校関係者評価の結果を学校運営にご活用いただき、桜木中学校が一層発
展されることを委員一同祈念いたします。

＜学校関係者評価委員＞

委員長 岡本ひとみ

委 員 近藤麻紀、菱澤亜希子、須藤美子、中岸真美、山田早苗(五十音順)

＜令和6年度調査実施期間＞

学校関係者アンケート

生 徒 11月 13日～ 11月 27日
保護者 11月 13日～ 11月 27日
地 域 11月 13日～ 11月 27日

	生徒	保護者	地域
配付数	307	307	63
回収数	268	195	36
回収率	87.3%	63.5%	57.1%

はじめに

学校関係者評価アンケート結果を受けて、教育活動や、その他学校運営の継続的な改善及び工夫等の基礎となる「重点目標」、「生徒・保護者・地域・独自項目の各評価」について、令和6年度末時点での評価を記していく。

※文中の評価(肯定的、否定的、わからない)については、特に記述がない場合、学年全体の平均値を示している。

■回収率について

今年度のアンケートも、保護者については紙媒体での希望者を除いて「すぐーる」登録者へのオンライン配信によるアンケートを実施。回収率は、生徒→87.3% (前年比-1.7%)、保護者→63.5% (前年比-6.5%)、地域→57.1% (前年比-3.9%)となつておらず、前年度(令和5年度)よりも若干減ったものの、令和4年度(回収率 39%)に比べると、保護者の回収率は大きく向上している。

今年度も学校側が保護者に向けて、アンケート回答へのリマインド(再確認)連絡を複数回発信していただいたことが、低迷していた回収率の底上げを実現できた要因のひとつであると推測される。次年度以降も、さらなる回収率向上を視野に、アンケートへのリマインドの実施など、協力をお願いしたい。

1. 重点目標について

桜木中では、「重点目標」として、以下の①～③を挙げている。それぞれの項目を、アンケート結果を踏まえて評価を行っていきたい。

① 指導方法の工夫・改善を行い、分かる授業の実践と 主体的に課題を解決する「探究的な学び」を実現する。

まず生徒への【1.学習指導について】の各設問では、肯定的回答の分布が84～99%と高評価となっており、指導方法の工夫や改善、分かりやすい授業の実践については、ほぼ達成していると考えられる。

主体的に課題を解決する「探究的な学び」の実現については、生徒への設問1-(1)「先生は、課題について、自分で考えたり、友達と考えたりする時間を授業の中で取っている」で97%の肯定的評価となっており、生徒が探究的な学びを実践するための素地は整っていると考えられる。

生徒、一人ひとりが学びの主体となって、自らの課題に向き合い、自分らしく学ぶことができるよう、引き続き、先生方からの支援をお願いしたい。

② 学校のきまりを考え守り、主体的に粘り強く、友達と協調して委員会や 係活動、学校行事などに取り組み、責任を果たす生徒を育てる。

生徒への設問【2.生活指導について】、2-(1)「私は、学校での過ごし方やルールについて考えて行動している」の肯定的評価は90%（前年比-1%）、2-(3)「私は、先生が指導した学校の過ごし方やルールについて理解できる」は、肯定的評価88%（前年比+4%）、【3.学校行事について】、3-(1)「学校行事は楽しい」は、肯定的評価94%（前年比±0%）となっている。

生徒アンケートの【学校独自項目】(8)、「私は、委員会活動や係活動に積極的に参加したいと思っている」については、肯定的評価が76%（前年比-5%）とやや減っているものの、比較的高評価である。

これらの結果から、生徒が学校のきまりを継続的に守りながら、学校行事を楽しんでいる様子が浮かびあがる。アンケート結果から推察する限り、重点目標②は、ある程度達成されていると考えられる。

③ 地域社会や学び舎の小学校、保護者と連携した教育活動を推進し、 主体的に地域に貢献できる生徒を育成する。

世田谷区教育委員会の「世田谷区教育振興基本計画（令和6年度～10年度）」によると、「『学び舎』による学校運営の推進」として、「学び舎」で切れ目のない指導が図れるよう連携するとともに、「学び舎」の特色を打ち出した学校運営や地域の教育力を活用した教育活動など、質の高い教育を展開します（抜粋）」とあり、学び舎の重要性が述べられている。

生徒への設問【6.全般について】6-(5)「学び舎の小学校に行ったり、小学生が来たりする機会がある」では、67%（前年比+13%）が肯定的評価であり、前年度から大きく向上した。

保護者への設問【6.全般について】6-(4)「本校は近隣の（幼稚園）、小・中学校で構成する『学び舎』の（幼稚園）小学校に行ったり、（幼児）小学生が来たりする機会がある」でも肯定的評価は69%（前年比+4%）と上昇している。コロナ禍が収束し、オンラインによる交流から、対面による交流が再開したことも影響していると思われる。

また、2年生が行う職場体験の発表を、生徒受け入れ先の地域の方が参観し、受け入れ側にとってもモチベーションアップにつながると好評であったとの報告もあった。引き続き、生徒のキャリア教育の一環としてだけではなく、学び舎の特性を生かし、地域との交流を継続していただき、生徒が多様な体験を積むことで、地域にも貢献できるという良い循環を続けていただきたい。

※「重点目標」「指導の重点」の周知と説明の必要性

▶保護者への設問、【9.学校運営について】9-(1)「本校は、保護者に指導の重点を伝えている」の肯定的評価は78%（前年比+12%）、9-(2)「本校は、教職員が指導の重点を理解して教育活動に取り組んでいる」は81%（前年比+10%）など、「指導の重点」については、高い評価を得ている。一方で、【10.家庭と学校の連携について】10-(3)「私は、今年度の学校の指導の重点を理解している」は、肯定的評価が58%（前年比+7%）と上昇はしているものの、やや低めである。

▶保護者からは、「重点目標」「指導の重点」といった言葉そのものの定義や表現が「わかりにくい」という声も多い。学校側から、これらの言葉の定義、意図など、よりわかりやすい言葉・表現で伝えることで、教育活動において、保護者からの理解や支援を受けやすくなる可能性がある。引き続き、「重点目標」「指導の重点」については、保護者への周知と説明の継続をお願いしたい。

2. 各関係者評価について

① 生徒

前年度に引き続き、全体的に高評価を得ている。

【1.学習指導について】【2.生活指導について】【3.学校行事について】【5.先生について】における各設問では、すべての設問において肯定的評価が8割以上となっている。ほぼ10割に近い肯定的評価を得ている設問も少なくない。これらの結果から、生徒が学校生活全般に満足している様子がうかがえる。

【5.先生について】

5-(1)「先生たちは、生徒にていねいに指導している」の肯定的評価は97%（前年比+7%）、5-(2)「先生たちは相談しやすい」83%（前年比+12%）となっており、元々高評価であった前年度と比較してもさらに肯定的評価が上昇している。この背景には、先生方が意識して、気になることがあれば、生徒に小まめに声かけをするなど、継続的な努力が、生徒たちから評価されている一因であると考えられる。

【4.キャリア教育について】

4-(1)「学ぶことが楽しい」は、今年度から新しく追加された設問であり、前年度との比較はできないが、肯定的評価は73%となっている。評価自体は低くはないものの、前述した【学習指導・生活指導・学校行事・先生について】の各設問に対する肯定的評価が8割～10割近くという、非常に高い評価を得ていることに比べると、当事者である生徒自身が感じる、自発的な楽しさや喜びについての設問「学ぶことが楽しい」における肯定的評価が若干低くなっている点は気になるところである。

4-(2)「私はキャリア・パスポートに書いた目標について、考えて行動している」の肯定的評価は63%。学年による差はあるものの、こちらも「私は～考えて行動している」という自発的な行動を問われる設問に対する評価が、やや低いようである。

これらの結果からは、生徒たちは、学校生活全般にはとても満足しているが、能動的に自ら行動するという面においては、若干控えめであることが推察される。

これまでに培ってきた、生徒と先生の信頼関係を生かして、生徒たちが自ら能動的に考え、主体的、対話的で深い学びを実現できるよう、引き続き丁寧な指導をお願いしたい。

② 保護者

前年度に継いで全体的に高評価を得ている。

【4.キャリア教育について】

設問4-(1)「本校はキャリア・パスポートの目標について子どもに考えさせる指導をしている」では、肯定的評価は64%と、過半数には到達しているものの、「わからない」という回答が29%と多めである。キャリア・パスポートは、基本的に学校で一括管理されているということで、保護者が目にする機会が少ないこともあり、保護者の認知度が不十分であると考えられる。

保護者もキャリア・パスポートの意義を理解して、子どもの取り組みや状況を共有し、必要に応じて、子どもへの声かけなども行うことで、子どもの可能性を認めて意欲を引き出し、子どもとの信頼関係を築くための有効なツールになる可能性があると考えられる。今後の取り組みのひとつとして、学年だより、保護者会、三者面談など、様々な機会を活用して、保護者のキャリア・パスポートへの理解を促し、深める機会をつくっていただくことを提案したい。

【5.教職員について】

5-(2)「本校は、子どもや保護者が相談しやすい」という設問では、肯定的評価は84%(前年比+9%)となっている。これは生徒への同様の設問「先生たちは相談しやすい」も肯定的評価が増えており、先生方が生徒同様、保護者に対しても、気になることがある場合は、個別に電話連絡したり、小まめに確認をとるなど、継続的なアプローチを行っているとのことで、こうした地道な努力が功を奏していると思われる。また保護者が学校側への連絡に「すぐーる」を活用することで、先生へ連絡する際の心理的ハードルが下がり、連絡しやすくなったという意見もあった。

③ 地域

桜木中周辺の地域は、長年にわたり、地域ぐるみで学校や子どもたちの成長を見守る、アットホームな雰囲気がある。アンケート結果からだけでは計り知れない部分もあるが、例年、地域の方々からの回答は概ね、肯定的評価が高い。今年度も各設問で高評価となっている。今後も引き続き、地域との関わりも大切にしながら、生徒たち自身が未来の地域の担い手としてバトンをつなげるよう見守っていただきたい。

④ 学校独自項目

生徒への設問「私は、学校図書館や図書館の本を活用している」の肯定的評価は、48%（前年比+11%）、保護者への同様の設問「子どもは学校図書館や校内にある学校の本を利用・活用している」の肯定的評価は41%（前年比+14%）となっている。いずれも前年度に比べると肯定的評価は大きく上昇しているが、コロナ禍前の令和元年度の肯定的評価（生徒）が74%であったことを踏まえると、学校図書館の利活用については、まだ伸びしろがあると考えられる。

図書館で本を読んだり、借りるといった目的以外に、安心して図書館で過ごしたり、生徒たちが落ち着ける「居場所」としての役割も期待される。生徒たちが心地よく過ごせるレイアウトの配置など、必要に応じた対応をお願いしたい。

これからの中学校図書館には、主体的・対話的で深い学び（アクティブ・ラーニングの視点からの学び）を効果的に進める基盤としての役割も期待されており、学校図書館の機能や役割を十分に発揮して、引き続き、ビブリオバトルやブックトークの開催などを含め、より多くの生徒が本に親しむことができる機会をつくっていただきたい。

3. 総括（まとめ）

▶令和6年度は、コロナ禍で制限されていた対面行事の完全復活も果たし、学校にも活気が戻ってきたことは、大変喜ばしいことである。アンケート結果からは、生徒・保護者と先生方との間に信頼関係が築かれており、多くの生徒が安心・安全な環境で学校生活を楽しんでいる様子がみてとれる。

▶校長先生からは、「（本校の学校関係者評価における）全体的な高評価に甘んじることなく、肯定的評価に至っていないケースも含め、すべての生徒へ意識を向け、誰ひとり取りこぼしのないよう全力で改善に取り組んでいく」という力強い言葉を頂いた。今後も先生方一人ひとりの経験や想像力を存分に生かして、主体的に学校と保護者、地域が連携・協働し、子どもたちが安心して学び、個性を発揮できる環境づくりや場の創出を推進していただき、さらなる教育活動の発展を期待したい。

以上